

## 声明

### 翁長知事の、辺野古埋め立て承認取り消しを支持します

2015年10月15日 日本宗教者平和協議会

翁長雄志沖縄県知事は13日、名護市辺野古の米軍新基地建設の埋め立て承認を取り消しました。

私たちは、翁長知事の第三者委員会による検証結果と、この間の選挙でくり返し示された圧倒的な沖縄県民の願いに応えた勇気ある今回の決断をこころから歓迎し、全面的に支持・連帯を表明するとともに、安倍政権に沖縄県知事のこの判断を尊重し、従うよう強く求めるものです。

私たちはこの間、沖縄の宗教者と連帯し続けてきました。先月も代表を派遣し、沖縄の宗教者とともにも名護市辺野古のいのち豊かな自然環境を破壊し、戦争のための最新鋭の米軍新基地建設を許さず、米軍に不当に奪われたすべての土地の返還と、虐げられてきた人権侵害の回復を求めて「辺野古の海一祈りの航海」に取り組みました。

戦争のための新たな米軍の出撃基地の建設は絶対に許されません。

私たちは安倍内閣に、沖縄県民の8割を超える「県内移設反対」、7割以上の「埋め立て承認取り消し支持」の意思を尊重し、新基地建設の断念、普天間基地の無条件返還という人間の尊厳に関わる問題の解決をはかるよう強く求めます。

最後に、防衛局が「私人」になりすまして「不服審査請求」し、国土交通相が「承認取り消しの執行停止と無効」の採決をおこなうなどという地方自治、法治主義、民主主義をないがしろにする茶番は断じて許されないこと、それは、「海外で戦争する国」づくりの安全保障関連法（戦争法）の「可決・成立」と同様に無法であることを指摘しておきます。

私たちは、「殺すな、殺されるな、殺すことを許すな」という共通の教えにたって、引きつづき沖縄県民・宗教者と連帯し米軍新基地建設阻止のために取り組む決意です。